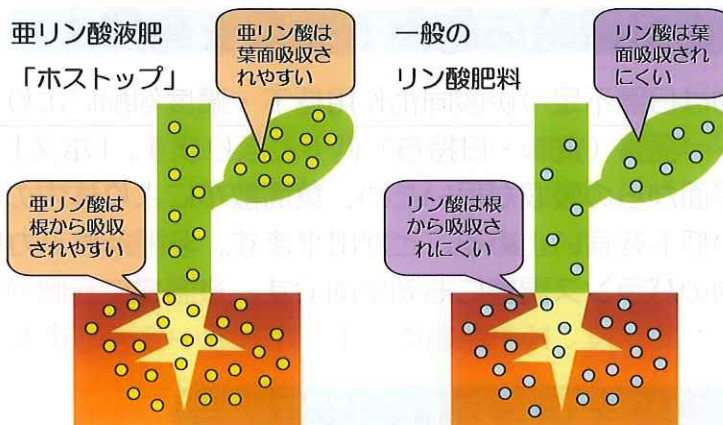


# 亜リン酸液肥「ホストップ」の特長と使い方

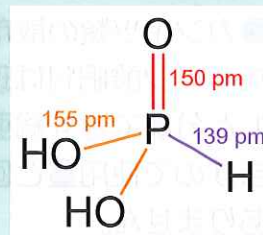
亜リン酸は植物の体内をすばやく移行し、リン酸に転化されます。また火山灰土壌でもリン酸固定されにくい性質を持ちます。「ホストップ」は亜リン酸による窒素の調整効果+カリの供給でNK比をすばやく改善し、ストレスを受けた植物の回復や体質改善に効果があります。



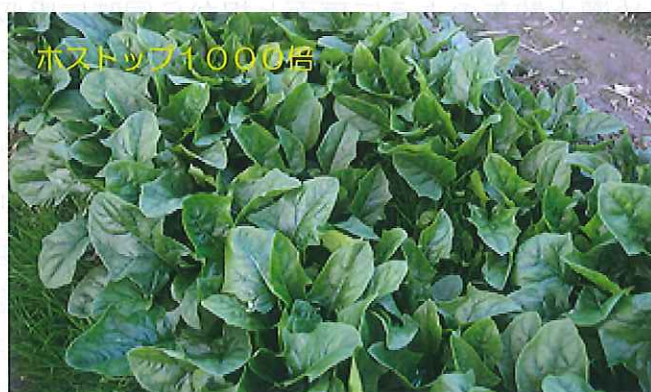
●肥料成分 N:P:K:Ca=0:25:20 ●容量:500ミリリットル/1リットル/10リットル

## 《ホストップの効果》

- \* 分けつ、発根促進
- \* 低日照時の品質向上（ストレス回避）
- \* 窒素中断効果、硝酸態窒素の低減
- \* 着花（着果）促進、糖度向上
- \* 植物の抵抗力増進（活性酸素除去）



亜リン酸は土中で固定されにくく、吸収されやすい性質を持っています。



栽培中にゲリラ雨で冠水した圃場のホウレンソウは対照区のように生育不良・黄化症状を呈する。冠水後ホストップ処理（1000倍）したホウレンソウでは亜リン酸+水溶性カリの効果で症状が改善されている。

### ★上手な使い方（ポイント）

- 葉面散布、灌水チューブからの施用どちらもOKです。
- 1回の施用量は10㎡当り500ccが目安です。
- 7～10日間隔で1～3回施用します。
- 好適濃度は1000倍です（高温時注意します）。

### ★使用上の注意

酸性肥料のため石灰、アルカリ系資材/薬品（石灰硫黄合剤、銅剤）との混用は出来ません。また高濃度で散布する場合や高温時の使用などでは障害に注意する必要があります。



## ●「ホストップ」が他のリンカリ肥料と違うところ

水溶性のリンカリ液肥は窒素が効き過ぎて養分バランスを崩した植物や徒長気味の植物の調整に便利です。「ホストップ」は他のリンカリ液肥に比べ「葉面からの吸収の良さ＝通常のリン酸よりも体内移行が早い」「土中で固定されにくい」点で優れています。即効性があるため追肥で「植物の顔」を見ながらバランス調整に使用できるので非常に便利です。

## ●低日照時の施用で効果を発揮！

作物は日照不足⇒炭酸同化作用低下・濃度勾配によりNが優先的に吸われる⇒体内のC/N率低下⇒品質（食味・日持ち）低下となります。「ホストップ」の主成分の亜リン酸・水溶性カリは葉面からの吸収が早いため、葉面散布により体内のN（P）Kバランスが急速に改善し、品質の低下を食い止めることができます。多雨条件でカリが溶脱し、 $N > K$  とバランスを崩した作物のバランス調整にも効果的です。※圃場に元肥が効く状態で「ホストップ」を数回散布することで、 $N : K$ の最適比＝ $1 : 1$ 、 $5 \sim 2$ を通すような管理ができます。

## ●使用上の注意について

- 生育初期に高濃度でかけない⇒生育座止または生育停滞の可能性あり。
- 高温時に高濃度でかけない⇒葉に障害が出ることがある。
- カンキツ類の散布に注意⇒まだら果がでることがある。

また亜リン酸肥料は現状分析機器の性能上、殺菌剤「アリエッティ」の主成分である「ホセチル」と分離できず総亜リン酸量を検出してしまうため、肥料履歴の提出を求められる場合がありますので使用量と回数にご注意ください。安全性については肥料登録が下りておりますので問題ありません。

## ●「ホストップ」Q&A

### ①葉面散布か土壌灌注か？どちらがいいでしょうか？

⇒亜リン酸は葉面散布での効果が高い液剤ですが、土壌中に施用しても固定されにくい性質のため灌水散布のように葉面と根から同時に吸収させるのが効果的です（希釈液で10ℓ当たり200ℓ以上の施用を推奨しています）。高温で葉に障害が出る恐れのあるときや、葉を濡らしたくないときは土壌灌注で使用します。

### ②効果の出やすい亜リン酸の施用量は？効果の出やすい亜リン酸の濃度は？

⇒作物にもよりますが、一般に10ℓ当たり亜リン酸の最適量は換算値で120g程度、上限値は300gです。「ホストップ」500cc中の亜リン酸の容量は170～190gになりますので10ℓあたり500cc原液で0.5～1本が適量です。また効果的な濃度ですが、亜リン酸の換算で、通常0.01～0.3質量%であり、好適には0.02～0.12質量%です。また、そのときの施用量は通常10アール当たり100～200ℓです。「ホストップ」1000倍で約0.025%ですから、好適希釈倍率は800倍～1000倍です。

500-750倍程度で散布すると窒素中断効果が強く現れます（葉の障害に注意が必要です）。

### ③他の液肥や農薬との混用は？

弱酸性のためアルカリ性の液肥との混用はできません。現状サカタ推奨の高機能液肥（ペンタキープ、鉄力あくあ、ネイチャーエイド、ソイルマスター、マルチケージン）との混用が可能です。農薬の混用については推奨しておりませんが、中性～弱酸性の殺菌/殺虫剤についてはほぼ問題ありません（作り置きはできません）。殺菌剤の一部（石灰硫黄合剤や銅剤のようなアルカリ剤）はガスが発生するため混合できません。展着剤は農薬と混ぜる場合に使用します。